

ノツケからの航路図（江戸時代末期）



野付通行屋跡遺跡

野付半島は一年で一センチメートル、年々沈下しています。このまま放っておくと遺跡も浸食され、崩壊の危険があることから別海町は平成十五年から十七年にかけて発掘調査を実施しました。



遺物（陶磁器類など）



貝塚

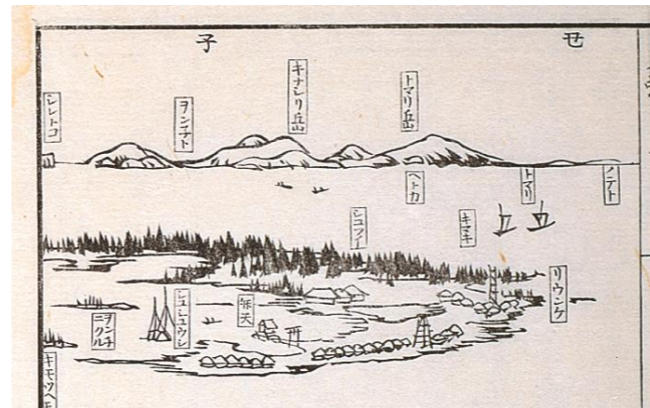


建物跡



『幻の町「キラク」』
野付半島には地元で伝承されている伝説があります。それは「幻の町キラク」。

野付通行屋跡遺跡は江戸時代末期の遺跡であり、文献資料と遺構が残った北海道の中でも貴重な遺跡として知られています。



『東蝦夷日誌』松浦武四郎（安政3年）

野付半島の先端を描いた松浦武四郎の「東蝦夷日誌」では、通行屋（中央下の三軒）やニシン漁を行っていた番屋（対岸の建物群）が描かれています。

◆所在地◆
野付通行屋跡遺跡
【住所】 野付郡別海町野付
・野付半島ネイチャーセンターから車と徒歩で約30分（要許可）
※ 野付通行屋跡遺跡を訪問される際は、事前に野付半島ネイチャーセンターにご相談ください。

■ 野付半島ネイチャーセンター
【住所】 野付郡別海町野付63
TEL : 0153-82-1270
ホームページアドレス
<http://notsuke.jp/>
・中標津空港から車で約50分

■ 加賀家文書館
【住所】 野付郡別海町別海宮舞町29
TEL : 0153-75-2473
ホームページアドレス
<https://betsukai.jp/kyoiku/kyoudo>
・中標津空港から車で約35分

加賀家文書館
資料展示

野付通行屋の支配人として加賀伝蔵という人がいます。支配人・アイヌ語通訳として活躍し、野付半島で農耕を試みた人物として知られています。加賀伝蔵が残した多くの古文書資料や生活資料などが、別海町の「加賀家文書館」に展示されています。